

皆人いひけり、

〔南嶺子〕^四近年、神道者といふもの出来て、その門弟となるものへ、命號をゆるし、又は官名の下つかさなきを名づけ、狩衣淨衣などをゆるす。^略○中 天子より命爵もなき人、何を以命と稱せんや、たとへば、米屋の太郎兵衛なれ共、神道の方にては、林玄蕃と名つき、豆腐屋の二郎七なれ共、神拜の時は、松川左京と號するなどの免狀をうけ。^略○下

〔燕石襟志〕^一苗字

佐渡にては、女の名に、にさといふが夥ありとぞ、その故は、まらず、又あさといふ名もおほかり、これは朝に生れたるに、まか名づくといふ、晝夕もこれにおなじ、男子にも朝介、晝介、夕介など名告るもの多し、亦猿松、總郎、晚兵衛などいふもあり、亦伊兵衛が一子に、伊平、又多平が一子に、多兵衛と名告るものありとなん、その地の俗習、便宜に任するものなれば、かくても紛る、事なきにや、

〔伊豫國順廻記〕^二前大保木山

^{新居郡氷見組}
○中略

庄屋 文五郎

御拜地前よりの庄屋にて、一柳家時代の宗門改帳、并大身鎗一本を藏む、其宗門改帳の内に、男女の名、常に異りたるを左に擧、

男名 千徳、相徳、峯徳、宮鶴、松千代、國千代、若松、ごよむし、石若、五郎丸、ごばん、千立、つごも、

右之外、右衛門、左衛門の門は、皆問の字に作る、門に作りたるはなし、右衛門、左衛門は、官名なれば、舊は憚りて、問の字に書たる歟、

女名 半六、へんろ、玄よぶ、太郎、次郎、みやいち、ごくまびしや、宮松、きくいち、たまる、さるまのこ、る、ひめ、じよろ、はないち、宮路、から松、わかま、ざつき、ちよば、

右の通りにて、女の中に、男名付たるもあり、男名の中に、女名に似たるもあり、又歴々の名の様に